

## 【査読論文】

# 我が国における道德教育と国際バカロレア教育の関係についての基礎的考察

田中 無量（武蔵野大学仏教文化研究所客員研究員）

## 要約

本稿は、我が国の道德教育と国際バカロレア教育（以下 IB）の関係を考察するものである。「道德科」の学習指導要領・解説の記述分析を中心に両者の関係を整理し検討すると、「IB の使命」およびそれを具体化する「IB の学習者像」と我が国の道德教育には多くの共通性がみられ、「IB の使命」には内在する道德教育がある。また学習者像は、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となっており、我が国における道德教育と整合する。そしてそれに基づくプログラムは、学校の教育活動全体で行う道德教育に収められ得るものであろう。また IBDP の TOK と CAS は IB の道德性を発揮する教育プログラムである。IB の他の各プログラムは分析的科学的手法が採用されるが、相互に補完することで IB の使命・学習者像を実現し、IB 全体の道德教育が実践される。これを他の学校教育に応用すれば、各教科における教科独自の科学的方法、分析に基づく真理探究の授業も可能である。

## 1. 序論 ―問題の所在―

本稿は、我が国における道德教育と国際バカロレア教育（International Baccalaureate 以下 IB）の関係について考察するものである。従来、十分に検討されてこなかった道德教育と国際バカロレア教育の関係について、「特別の教科 道德」（以下、道德科と略）の学習指導要領・解説の記述分析を中心に両者の関係を整理し検討してみたい。

教育基本法第一条には、「人格の完成を目指し平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた国民の育成を期して行われ」とある。この人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道德性であり、その道德性を育てることが学校教育における「道德教育」の使命である<sup>1</sup>。

我が国の道德教育は、近代日本において明治期より様々な変遷があるが、2015

年の学習指導要領の一部改正において、小学校・中学校に「道德科」が明記された。道德科は各教科と横並びではなく、学校の教育活動全体で行われる道德教育の要としての役割を担う。そして新たな道德教育の目標は、「自己の生き方（人間としての生き方）を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者ととともによりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする」（括弧内は中学校、傍線部は引用者による）である<sup>2</sup>。

人格の完成及び国民の育成の基盤となる道德性を育むのが「道德教育」であり、それは学校教育全体で行われるものであり、道德科はその道德教育の要となる。高等学校に道德科は設定されてないが、先に挙げた教育基本法第1条に基づき、学校教育全体のなかで「道德教育」が求められている。

一方 IB は、国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムである。1968 年、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置された。これがディプロマプログラム（DP：Diploma Programme）である。その後、1994 年に「IB 中等教育プログラム」（MYP：Middle Years Programme）を、そして 1997 年に「IB 初等教育プログラム」（PYP：Primary Years Programme）を設置し、国際教育に取り組む、3 歳から 19 歳までの幼児および児童生徒を対象とした一貫教育プログラムを確立した。2024 年 6 月現在、国際バカロレアの認定を受けている学校は、世界 160 の国と地域において約 5800 校あり、そのうち、日本における認定校数は、173 校（候補校も合わせると 249 校）である。内訳として、PYP の認定校は 65 校、MYP の認定校は 39 校、DP の認定校は 69 校である。また 2012 年に新設された CP は、16～19 歳までを対象としたキャリア教育・職業教育に関連したプログラムであり、生涯のキャリア形成に必要なスキルの習得を重視する。我が国においても 1 校が候補校となっている。また国内の認定校のうち、学校教育法第一条によって規定される、いわゆる一条校としての IB の学校は 2024 年 6 月 30 日現在、78 校ある<sup>3</sup>。したがって IB 校においても学校教育法第一条によって規定される一条校ともなれば、当然、教育基本法第一条に基づく、我が国の「道德教育」が求められることになるだろう。そこで我が国に

における「道德教育」と「IB」の関係の一端について考察してみたい。

## 2. 我が国における道德教育と国際バカロレア教育に関する先行研究

まずは我が国における道德教育と IB の関係について先行研究を挙げておく。従来はほとんど研究がなされていない。従来の研究では、道德教育における様々な課題解決のために、IB を視野に入れた道德教育の意義と可能性について論じられた<sup>4</sup>。また IB の評価基準に照らして、我が国の道德教育について道德性の評価を明確にするべきとの指摘もある<sup>5</sup>。しかし前者は小学校・中学校に道德科が明記された 2015 年以前の論文であるため、道德教育は学校の教育活動全体で行われ、その道德教育の要としての役割を担うのが道德科であるという視点が欠落している。また後者は我が国の道德教育を評価によって固定する可能性があり、国家が主導してしまう危険性を孕んでいる。我が国における道德科は、個人の様々な価値観を認めていくものであり、道德性の評価を明確にする必要がないといえる。

このように直接的に道德教育と IB について論じたものは以上に挙げた通りだが、関連する先行研究についても以下に挙げておきたい。日本の教育と IB を比較した研究に垣間見られる。

例えば高等学校の国語科と IBDP の「言語 A：文学」の教育方針とが比較検討されている。「国語総合」<sup>6</sup>において目指すものとして「思考力や想像力を伸長させるとともに、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな感性や情緒をはぐくむこと、言葉の適切さや美しさについての感覚を磨」(傍線部、引用者)くとある。それに対し、DP の「言語：A」においては傍線部のような道德的内容や心情主義はなく、科学的な角度から捉え、具体的な力を提言する目標を設定しており、我が国の国語教育にも同様の方法を求める勝俣文子の研究がある<sup>7</sup>。勝俣は IB の学習者像にある「考える人」において、分析し、批判的、創造的に考えることが挙げられることに関連付け、その学習者像に基づき、「言語 A：文学」を科学的な方法によるものであることを指摘する。この方法論は、他の IBDP の教育方針においても同様であると考えられる。その場合、道德教育の立場からは、我が国の国語科に対応する IB の「言語：A」等にみられる IB 独自のプログラムは、我が国における学校教育全体で取り組むべき「道德教育」を実現するものか

という疑問が生じる。この問題については後述する。

また筆者は、拙稿<sup>8</sup>において、建学の精神を仏教とする仏教主義の学校を例にして、釈尊仏教の無我・縁起の思想と IB の学習者像の関係を論じた。この論考のなかで、筆者は、IB の中核となる使命（理念）および学習者像と、釈尊仏教思想とがどのように関連付けられるかを論じた。当稿は、この論考に類似する方法である。

以上の先行研究を踏まえ、IB のプログラム実施の核となる IB の使命（理念）と学習者像を、「道德科」の学習指導要領・解説の記述から分析する。それにより、IB の使命（理念）と学習者像について、我が国の道德教育（特にその目標）と合致するものかを検討してみたい。

### 3. IB の使命と学習者像

IB における中核は、その使命（理念）と学習者像である。IB の使命と学習者像について述べておく。

文部科学省（以下、文科省）IB 教育推進コンソーシアム「IB（国際バカロレア）とは」<sup>9</sup>によると、IB の使命（The IB mission）は、国際教育プログラムを推進し、発展させることの総体的な目的を示す。IB の使命（理念）の具体的な文言については後に検討する。IB プログラムでは、「国際的な視野」をより明確な言葉で定義づける試みと、実践を通じてその理想に近づこうとする努力を、IB 認定校の「使命」の中心として位置づける。

また「IB の学習者像」は、「IB の使命」を具体化したもので、「国際的な視野をもつとはどういうことか」という問いに対する IB の答えの中核を担う。具体的には、IB 認定校が価値を置く人間性を、10 の人物像として表す。「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」である。この IB の使命（理念）と学習者像を実現するために、すべてのプログラムがある。参考までに文科省の IB 推進コンソーシアムにある IB の PYP、MYP、DP、CP の図を挙げておく（図 1）。

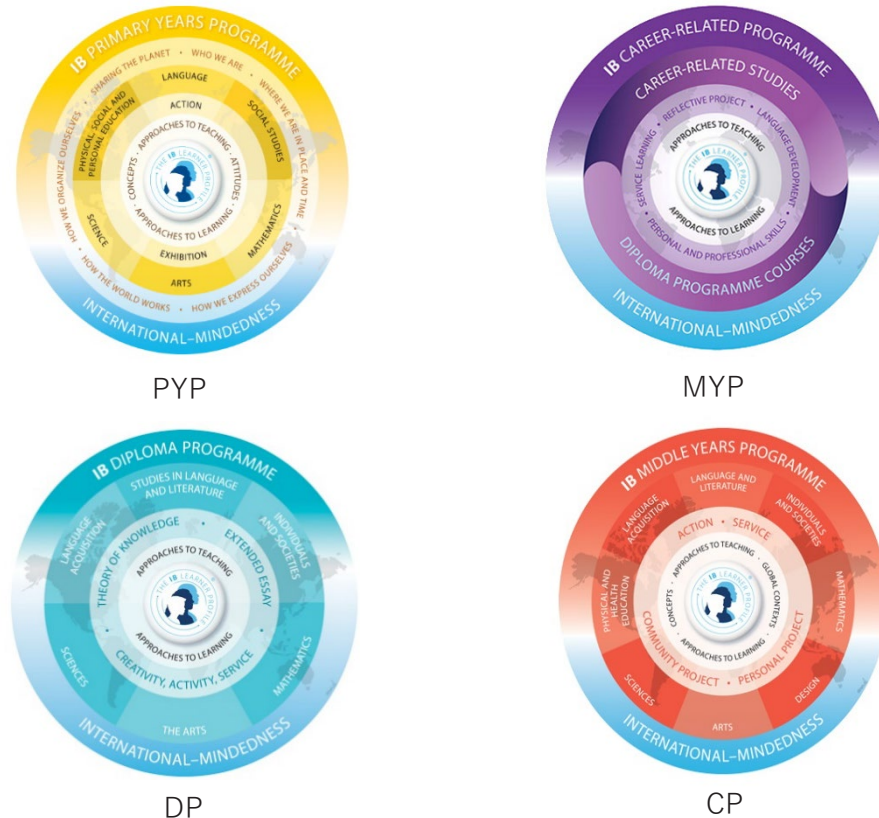
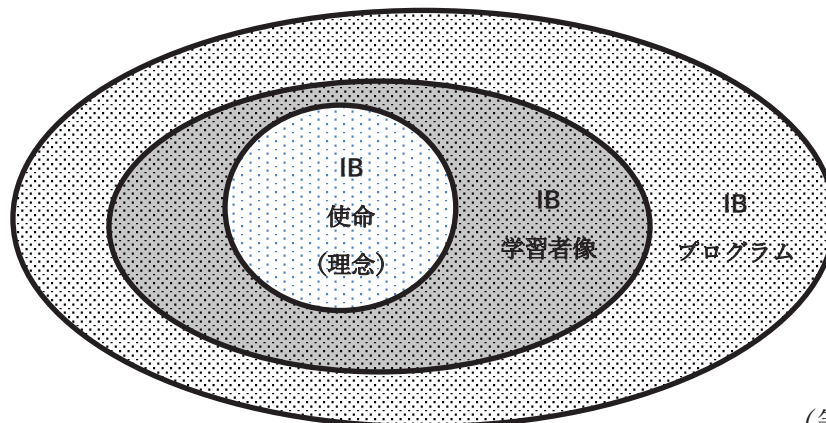


図 1

「IB（国際バカロレア）とは」より引用<sup>10</sup>

全ての中心に「IB の学習者像」があり、それに基づくプログラムであることがわかる。「IB の学習者像」は「IB の使命」を具体化したものであるから、4つの IB プログラムをまとめて図に表すならば以下の図 2 の通りとなろう。



(筆者作成)

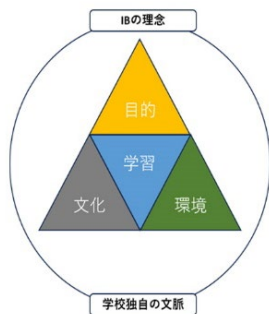
図 2 IB における使命・学習者像・プログラムの関係図

上図には、当然、我が国の道德教育が含まれておらず、IB との関係は浮き彫



りになっていない。我が国の道德教育がどこに含まれるかを考察する必要がある。しかし、IB のプログラムが IB の使命と学習者像を実現するものである以上、IB の使命と学習者像に我が国の道德教育がみられるかどうかを考察し、みられるとなれば、IB のプログラムにそれが反映されていることがわかる。したがって IB の使命と学習者像における我が国の道德教育を明かすことが、道德教育と IB の関係を論じる上で基礎となるといえよう。

なお現在、IB のプログラムの基準と実践については、目的、環境、文化、および学習という 4 つの主要カテゴリーに分類される。この 4 つのカテゴリーは、学習を中心に置き、IB の理念と「学校独自の文脈」をその周りに配置した枠組みの中に組み込んでいる。以下の通りに図示されている。



「IB（国際バカロレア）とは」より引用<sup>11</sup>

図 3 IB の学習基準と実施の枠組み

そして IB ワールドスクールコミュニティにおいて期待されることの一つに、「IB の理念が各学校固有の文脈の中に上手に統合されること」を挙げる<sup>12</sup>。この「学校固有」や「学校独自の文脈」において我が国における「道德教育」を実施していくことも考えられよう。従って「学校固有」の教育において可能であると考えられるが、本論ではあえてこの「学校固有」の教育ではなく、IB 独自の教育（主に理念と学習者像）に注目することで、IB そのものにみられる道德教育について考察していくことにしたい。

#### 4. 我が国における道德教育からみる IB の理念

我が国における道德教育から「IB の理念」について考えてみたい。文科省の『道德科中学校学習指導要領解説』<sup>13</sup>は、「第 2 章 第 2 節 道德科の目標」において「道德科の目標」について解説する。その中で、学校の教育活動全体を通じて行

う「道德教育」についても述べている。その道德教育について抜粋し以下に表にまとめ、(a)、(b)、(c)、(d)の四つに分ける。

(a)よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
(b)多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道德的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道德教育が求めるものである。
(c)道德科を要とした、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育が目指すものは、特に教育基本法に示された「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」(第1条)であり、「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道德心を培うとともに、健やかな身体を養う」(第2条第1号)こと、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」(同条第2号)こと、「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」(同条第4号)こと、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」(同条第5号)ことにつながるものでなければならない、
(d)「主体的な判断に基づいて道德的实践を行い、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことが道德科の目標である。このことは各教科等における道德教育でも同様である」

(以上、括弧英字は筆者の加筆による)

次に、「IB の使命」について確認してみたい。文科省「国際バカロレア (IB) の教育とは？」<sup>14</sup>によると、次の通りである。便宜上、3つの文言に分ける。

①IB は多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的とし

ています。

②この目的のため、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

③IB のプログラムは、世界各国で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

(以上、丸数字は筆者の加筆による)

この IB の使命は、PYP、MYP、DP、CP の全てのプログラムに通じるものである。この「IB の使命」の文言を、上述の「道徳科」学習指導要領に照らして考えてみたい。まずは①の文言について考えてみたい。

① IB は多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。(傍線、引用者による)

傍線部に「多様な文化の理解と尊重の精神を通じ」とある。これを「道徳教育」の目標に照らし、該当するものを抜粋して列挙すれば、以下の通りである。

(a)・物事を広い視野から多面的・多角的に考え

(b)・多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また国家・社会の形成者としてよりよく生きる

(c)・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

(d)・他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

また傍線部に、「より良い、より平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的」とある。これに該当する道徳教育の文言を挙げれば以下の通りである。

(a)・広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

(b)・多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、(中略) 生きるべきかを自ら考え続ける姿勢



(c)・平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質
・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度
・自他の敬愛と協力を重んずるとともに公共の精神に基づき、(中略) その発展に寄与する態度を養う
・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う
(d)・他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う

①の箇所において、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育との整合性が多く見られることがわかる。

続いて、②の箇所である。②は、①の目的のために取り組むことが述べられており、IB は①の目的を実現するためにあることを明記する。①は学校教育全体における道德教育と整合するのであるから、IB は道德教育と合致する「IB の使命」の目的のために取り組むものと考えられる。

最後に③の箇所について考えてみたい。これについて該当する道德教育の文言を列举したい。

(a)・自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める
(b)・多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道德的価値に向き合い、 ・いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道德教育
(c)・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき ・国際社会の平和と発展に寄与する態度
(d)・自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤

このよう対応して考察してみると、「IB の使命」と学校教育全体の道德教育には共通性が多くみられる。文科省の求める道德教育のすべてが網羅されているかどうかの検討やその必要性については今後の課題となるが、少なくとも「IB の使命」は我が国の道德教育にも整合するものと考えられる。「IB の使命」に内在する道德教育があるといえよう。

この「IB の使命」はプログラム全体の中核にある。IB の場合、各プログラムが科学的手法を持って各教育がなされたとしても、IB 全体の教育はその使命に基づくものである。それゆえに、科学的方法を用いる真理追究の教育においても、追究する限りにおいて道德性を離れたものであったとしても、それが「IB の使命」に基づくものであるから、「IB の使命」に内在する道德教育を為すものと考えられよう。以下において、さらに「IB の使命」を具体化した「IB の学習者像」についても考察していく。

この「IB の使命」と「プログラム」の考え方は、IB 以外の学校の教科教育に取り込み、応用していくことが可能であろう。つまり学校教育全体の道德教育を想定し、「道德科」を中核に据えていくことで、各教科においては、道德教育を一端離れて科学的方法を持って真理を追究したとしても、学校の教育活動全体において道德教育を実施できる方法を見いだし得るのである。

## 5. 我が国における道德教育からみる IB の学習者像

続いて、我が国における道德教育から「IB の学習者像」について考えてみたい。文科省<sup>15</sup>によると、道德教育の目標を達成するために指導すべき内容を、4つの視点に分けて示している。

A 主として自分自身に関すること（以下 A とする）

B 主として人との関わりに関すること（以下 B とする）

C 主として集団や社会との関わりに関すること（以下 C とする）

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること（以下 D とする）

前節に挙げた文言からの検討に加え、この4つの視点も加味しながら、「IB の学習者像」と我が国の道德教育（その目標）と整合していくものか考察したいと思う。

IB は、10の学習者像<sup>16</sup>を挙げ、(1)探究する人(Inquires)、(2)知識のある人(Knowledgeable)、(3)考える人(Thinkers)、(4)コミュニケーションができる人(Communicators)、(5)信念をもつ人(Principled)、(6)心を開く人(Open-minded)、(7)思いやりのある人(Caring)、(8)挑戦する人(Risk-takers)、(9)バランスのとれた人(Balanced)、(10)振り返りができる人(Reflective)としている。それぞれ順に検討してみたい。

## (1) 探究する人(Inquires)

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ 実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として ((b))
- ・ 自ら考え続ける姿勢 ((b))
- ・ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い ((c))
- ・ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う ((c))
- ・ 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道徳教育の目標達成のための内容としては A、B、C に該当する。

上述の通り、(1) について道徳教育との整合性がみられる。

## (2) 知識のある人(Knowledgeable)

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ 国家・社会の形成者としてよりよく生きる ((b))
- ・ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い ((c))
- ・ 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道徳教育の目標達成のための内容としては B、C に該当する。

上述の通り、(2) について道徳教育との整合性がみられる。

### (3)考える人(Thinkers)

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・物事を広い視野から多面的・多角的に考え、((a))
- ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・いかに生きるべきかを自ら考え続ける ((b))
- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い ((c))
- ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う ((c))
- ・正義と責任 ((c))
- ・主体的な判断に基づいて道徳的实践を行い ((d))
- ・道德教育の目標達成のための内容としてはAに該当する。

上述の通り、(3)について道德教育との整合性がみられる。

### (4)コミュニケーションができる人(Communicators)

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人 ((b))
- ・平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた ((c))
- ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う
- ・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき ((c))
- ・自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・道德教育の目標達成のための内容としてはA・B・Cに該当する。

上述の通り、(4)について道德教育との整合性がみられる。

## (5)信念をもつ人(Principled)

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ 人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて ((b))
- ・ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質 ((c))
- ・ 正義と責任 ((c))
- ・ 公共の精神に基づき、(中略) その発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 主体的な判断に基づいて道徳的实践を行い ((d))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道德教育の目標達成のための内容としては A・B・C に該当する。

上述の通り、(5) について道德教育との整合性がみられる。

## (6)心を開く人(Open-minded)

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人 ((b))
- ・ 国家・社会の形成者としてよりよく生きるために ((b))
- ・ 自ら考え続ける姿勢 ((b))
- ・ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道德教育の目標達成のための内容としては A・B・C に該当する。

上述の通り、(6) について道德教育との整合性がみられる。



## (7) 思いやりのある人(Caring)

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人 ((b))
- ・ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた ((c))
- ・ 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う ((c))
- ・ 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 主体的な判断に基づいて道徳的实践を行い、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道德教育の目標達成のための内容としては B・C に該当する。

上述の通り、(7) について道德教育との整合性がみられる。

## (8) 挑戦する人(Risk-takers)

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として ((b))
- ・ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成 ((c))
- ・ 健やかな身体を養う ((c))
- ・ 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道德教育の目標達成のための内容としては A・B に該当する。

上述の通り、(8) について道德教育との整合性がみられる。

## (9) バランスのとれた人(Blanced)

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、

身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ 人間としての生き方についての考えを深める ((a))
- ・ 道徳的な判断力、心情 ((a))
- ・ 多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として ((b))
- ・ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成 ((c))
- ・ 健やかな身体を養う ((c))
- ・ 男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ((d))
- ・ 道徳教育の目標達成のための内容としては A・B・D に該当する。

上述の通り、(9) について道徳教育との整合性がみられる。

(10) 振り返りができる人(Reflective)

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

文科省の解説から、関連付けられる文言を列挙したい。

- ・ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え ((a))
- ・ いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢 ((b))
- ・ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う ((c))
- ・ 正義と責任 ((c))
- ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きるため ((d))
- ・ 道徳教育の目標達成のための内容としては A・D に該当する。

上述の通り、(10) について道徳教育との整合性がみられる。

以上の検討から IB の学習者像は、全て「自立した人間として他者と共により

よく生きるための基盤」となっている。この文言は文科省の道德教育についての解説に、「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる」ものとしての文脈で、「道德性」として明かされている。その文脈に基づくならば、IB の学習者像はそれ自体、「道德性」とも呼べるものであり、IB の道德性とも呼ぶべきであろう。

つまり、IB の使命、学習者像はともに、「よりよく生きるための基盤」となるものであるため、道德性でもある。文科省の解説では、「道德的諸価値についての理解を基に」ともあるが、この道德的諸価値は、IB の場合、「IB の使命」がそれに該当するのであろう。IB の使命、学習者像はともに、「よりよく生きるための基盤」として、我が国の道德教育を逸脱するものではないのである。IB のプログラムはそれに基づくものである以上、学校の教育活動全体で行う道德教育がなされるものと考えられよう。

## 6. IBDP の TOK と CAS にみられる IB の道德性

上述の通り、IB の使命・学習者像には、「よりよく生きるための基盤」となるものが示されており、IB の道德性が明かされている。我が国の道德教育は包括的なものであり、様々な道德教育が考えられ、IB の道德性もその中に収められるものである。

最後に、各プログラムについても若干、考察しておきたい。すでに述べた通り、IB は道德教育を打ち出すものではない。むしろ IB の学習者像の「考える人」を基盤にした「分析し、批判的、創造的に考える」プログラムは、科学的手法によるものであり、道德教育となるものを除く傾向にあるといえよう。しかし IBDP には、TOK(theory of knowledge、知の理論)と CAS(creativity, activity, service、創造性・活動・奉仕)という特徴的なプログラムがあり、これらは IB プログラムモデルの「コア」を形作り、IB の道德性も垣間見られる。他のプログラムと互に関連し合い、補完し合う関係になっている。そこでこの TOK と CAS について考えてみたい。

TOK は、事象を批判的に捉え「知」(知識)を分析していくものである。様々な人間の「知」のあり方を分析し考察していくことで、「知」(知識)自体の固定性を疑い、様々な人間の「知」を理解していく。これにより多様性を身につけ、

IB の学習者像を形成することになる<sup>17</sup>。この TOK は、「物事を広い視野から多面的・多角的に考え」((a)) ることになり、我が国における道德教育と整合するものである。

また IB の CAS は「「創造性・活動・奉仕」(CAS) 指導の手引き 2017 年卒業予定者から適用」<sup>18</sup>によると、CAS と TOK の関係が述べられる。TOK は経験を知識に変えていく道しるべという役割を担い、その経験には CAS 活動も含まれる。CAS では生徒は TOK の議論を応用して様々なコミュニティーや文化への理解を深めることができる。CAS のプログラムのねらいには、「地域や世界のコミュニティーの一員として、他の人や環境に対して責任を負っていることを理解する人」となるように生徒を育てることが挙げられる。CAS には 3 つの要素があるが、本論ではそのうちの「奉仕」(service) に注目したい。

「奉仕」(service) は、「コミュニティーの真のニーズに対応して他者と共に活動しかつ相互の取り組みに従事すること」とある。そしてそのねらいは、コミュニティーや社会に対して自分がどのように貢献できるか理解することである。奉仕は、CAS の要素の中でも最も生徒の人生観に大きな影響を与える要素の一つと見られている。自己認識を高め、さまざまなふれあいや経験の機会をもたらす、国際的な視野をもたらすためであるとする。また 4 種類の奉仕活動があり、「直接的な奉仕：他者、環境、または動物などとのかかわり合いをもちます。」「間接的な奉仕：間接的な奉仕では、生徒は受益者と直に接することはありませんが、自分の行動がコミュニティーや環境にとって有益であることを確認します。」などとある。CAS は、「自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」((c)) ものであり、我が国における道德教育とも整合する。

TOK では多様性が理解され、CAS では助け合い、環境や動物などとの関わりが考えられており、TOK や CAS は IB の道德性が発揮された教育プログラムといえよう。IB の学習者像を実現しつつ、IB に内在する道德教育の実践も為されるものといえよう。

この IB のプログラムモデルに倣い、他の学校教育に還元すれば、道德科以外の教科が分析的科学的手法を用いて、道德教育から離れて真理を探究する教育を為したとしても、道德科が道德教育の補完をすることで、学校の「教育活動全

体」を通じて行う道德教育は可能であり、「よりよく生きるための基盤となる道德性」は養われよう。そうであれば、各教科が、道德教育に縛られることなく、各教科独自の特性を生かした真理探究の授業を実施することができよう。

また別の視点で考えてみると、仮に道德教育とは異なる科学的分析、手法の教科教育であったとしても、それは道德教育が求める、「個人の価値」の「尊重」としてその能力を伸ばし、創造性を培うものであり、「自主及び自律の精神を養う」ともいえる。従って各教科においてはあえて道德的に扱わずに、真理を追究しても、それは、個人の価値の尊重や自律の精神の尊重としての道德教育に整合し、やはり「学校の教育活動全体」を通じた道德教育は成立することになる。そのように考えれば、各教科において、教科独自の科学的方法、分析に基づく教育も道德教育の一つに収めて考えられよう。

## 7. 小結

我が国における道德教育と IB（主にその使命と学習者像）の関係について考察し、「道德科」の学習指導要領・解説に述べられる学校教育全体の道德教育に関する記述分析を中心に、両者の関係を整理し検討した。

「IB の使命」と学校教育全体を通じての道德教育には共通性が多くみられる。「IB の使命」に内在する道德教育があり、「IB の使命」は我が国の道德教育にも整合するものと考えられる。またその使命を具体化する「IB の学習者像」においても多くの共通性がみられ、我が国の道德教育と整合するものである。さらに全ての学習者像は、「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤」となるものである。文科省の道德教育についての解説に、「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる」ものの文脈で、「道德性」として述べられている。IB の学習者像はそれ自体、「道德性」とも呼べるものであり、IB の道德性とも呼ぶべきであろう。文科省の解説では、「道德的諸価値についての理解を基に」ともあるが、この道德的諸価値は、IB の場合、「IB の使命」がそれに該当し得る。IB の使命、学習者像はともに、「よりよく生きるための基盤」として、我が国の道德教育を逸脱するものではなく、それに基づく IB のプログラムは、学校の教育活動全体で行う道德教育がなされるものと考えられよう。

また IBDP 独自のプログラムに TOK と CAS がある。TOK では多様性が理解



され、CAS では助け合いが考えられており、TOK や CAS は IB の道德性を発揮する教育プログラムといえよう。IB の他の各プログラムは、分析的科学的手法が採用されるが、TOK・CAS が他のプログラムと関連し合い、相互に補完することで、IB の使命・学習者像を実現し、IB の道德性が発揮され、IB 全体の道德教育も実践される。

この IB のプログラムの考え方を他の学校教育に応用すれば、道德科以外の各教科が、道德教育を除いた各教科独自の分析的、科学的方法を用いて真理探究の授業を為したとしても、道德科が補完することで、学校の教育活動全体として道德教育は実現され则认为られる。各教科が、道德教育に縛られることなく、各教科独自の特性を生かした真理探究の授業を実施できよう。この一見、道德教育とは異なる手法の教科教育も、道德教育が求める、「個人の価値」の「尊重」としてその能力を伸ばし、創造性を培うものといえ、「自主及び自律の精神を養う」ものともいえる。つまりこの手法も道德教育に整合する。教育活動全体の道德教育は果たされていくことになり、各教科における教科独自の科学的方法、分析に基づく真理探究の授業による教育は、道德教育の一つに収められよう。

なお本論文は、主に学習者像という観点から分析を加えたが、道德教育の基軸となる道德的価値の側面から IB との関連性や異動を比較検討することや具体的な授業展開の視点から更に研究を深めることが今後の課題である。

## 注釈

- 1 文科省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道德編』教育出版、2018 年、1 頁。
- 2 押谷由夫・貝塚茂樹・高島元洋・毛内嘉威編著『道德教育の変遷・展開・展望（新道德教育全集第一巻）』学文社、2021 年、2、74 頁。
- 3 文科省の IB 教育推進コンソーシアム web ページ  
(<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/school/>)、閲覧日 2024 年 9 月 10 日
- 4 福山文子「国際バカロレアを視野に入れた道德教育」(『お茶の水女子大学人文科学研究』12 号、2016 年)
- 5 張夢溪・柳沼良太「道德教育の評価に関する国際比較研究－日本、中国、国

- 際バカロレア(IB)に着目して」(『岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)』第72巻1号、2023年)
- 6 現在の学習指導要領では「国語総合」という名称はなくなり「現代の国語」と「言語文化」に再編されている。
  - 7 勝俣文子「高等学校国語科と国際バカロレア「言語A：文学」に関する一考察－学習指導要領と指導の手引きの比較検討－」(『東京学芸大学 平成27年度「特別開発研究プロジェクト」活動報告』2018年)
  - 8 拙稿「仏教からみる国際バカロレア教育の意義－釈尊仏教の無我・縁起とIBの学習者像－」(『武蔵野大学仏教文化研究所紀要』36号、2020年)
  - 9 文科省のIB教育推進コンソーシアムwebページ  
(<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>)、閲覧日2024年9月10日
  - 10 文科省のIB教育推進コンソーシアムwebページ  
([https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/\(pyp/myp/dp/\)](https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/(pyp/myp/dp/)))、  
閲覧日2024年9月10日
  - 11 文科省のIB教育推進コンソーシアムwebページ  
(<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>)、閲覧日2024年9月10日
  - 12 文科省のIB教育推進コンソーシアムwebページ  
(<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>)、閲覧日2024年9月10日
  - 13 文科省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』教育出版、2018年、13～14頁。
  - 14 文科省「国際バカロレア(IB)の教育とは?」「IBの使命」  
([https://ibconsortium.mext.go.jp/wp-content/uploads/2024/02/about-ib\\_pdf\\_02.pdf](https://ibconsortium.mext.go.jp/wp-content/uploads/2024/02/about-ib_pdf_02.pdf))、6頁、閲覧日2024年9月10日
  - 15 文科省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編』教育出版、2018年、24～25頁。
  - 16 文科省「国際バカロレア(IB)の教育とは?」「IBの学習者像」  
([https://ibconsortium.mext.go.jp/wp-content/uploads/2024/02/about-ib\\_pdf\\_02.pdf](https://ibconsortium.mext.go.jp/wp-content/uploads/2024/02/about-ib_pdf_02.pdf))、7頁、閲覧日2024年9月10日
  - 17 拙稿「国際バカロレアの Theory of Knowledge (TOK) と仏教における知」(日本アクティブラーニング学会予稿集、2016年)

- 18 「「創造性・活動・奉仕」(CAS) 指導の手引き 2017 年卒業予定者から適用」(「DP Creativity, activity, service Cat1 (Japanese)」2023 年 8 月 8 日～10 日実施のワークショップ資料) 7、10、12、25 頁。